

みずほマーケット・トピック(2015年8月28日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

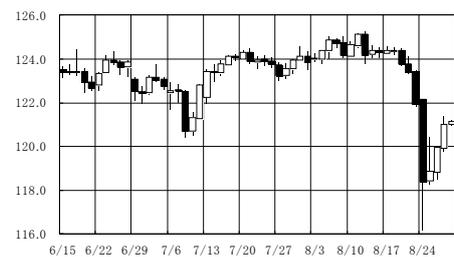
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週初急落するもその後は値を戻す展開。24日、121円台後半でオープンしたドル/円は一時週高値となる122.12円をつけるも、日経平均株価や上海株価の下落に121円割れまで連れ安に。その後もリスク回避の円買いが強まるとストップロスオーダーを巻き込み、米金利低下も相俟って、ドル/円は一時週安値となる116.15円まで急落した。翌25日は、中国の金融緩和や欧州株価が反発したことが後押しし、リスク回避ムードが一旦落ち着くと、ドル/円は119円台後半まで上昇。26日にかけても、日経平均株価が大幅反発する動きや米7月耐久財受注の市場予想を上回る結果を好感すると、ドル/円は120円近辺まで続伸となった。その後ダドリーNY連銀総裁の「9月の利上げは必然性が低下した」との発言に118円台後半まで弱含みとなったものの、NYダウ平均が大幅上昇する動きに連れてドル/円は120円台を回復した。27日も米4~6月期GDP(2次速報)が大幅に上方修正されたことや米金利が上昇したことを背景にドル/円は121円台前半まで一段高に。本日はやや値を戻しているものの、121円近辺で底堅く推移している。
- 今週のユーロ/ドル相場は下落する展開。週初24日に1.13台後半でオープンしたユーロ/ドルは、前週末から世界的な株安が進む中、リスク回避のユーロ買いが強まると一時週高値となる1.1713まで急伸。その後は米株価の下落が大きく縮小すると米金利も上昇し、ユーロ/ドルは1.15台前半まで反落した。25日は、中国の金融緩和や欧州株価の堅調推移を背景に、リスク回避ムードが後退すると、ドル買い優勢地合いとなり、ユーロ/ドルは1.14台半ばまで続落。26日は、プラートECB理事が追加緩和の可能性を示唆したことに加えて、米7月耐久財受注の市場予想を上回る結果を好感したドル買いや米金利の大幅上昇を受けて、ユーロ/ドルは1.12台後半まで一段安となった。27日は、米4~6月期GDP(2次速報)の結果や米金利上昇を受けたドル買いも相俟って、ユーロ/ドルは一時週安値となる1.1203まで下落。本日にかけても、ドル相場が堅調なことを受けてユーロ相場は軟化しており、ユーロ/ドルは1.12台前半で軟調推移が続いている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		8/21(Fri)	8/24(Mon)	8/25(Tue)	8/26(Wed)	8/27(Thu)
ドル/円	東京9:00	123.45	121.76	118.89	118.59	120.06
	High	123.50	122.12	120.40	120.03	121.40
	Low	121.82	116.15	118.25	118.45	119.80
	NY 17:00	121.96	118.41	118.87	119.95	121.03
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1235	1.1377	1.1580	1.1555	1.1339
	High	1.1389	1.1713	1.1623	1.1561	1.1364
	Low	1.1230	1.1370	1.1396	1.1290	1.1203
	NY 17:00	1.1388	1.1620	1.1517	1.1315	1.1246
ユーロ/円	東京9:00	138.70	138.52	137.65	137.11	136.08
	High	139.00	138.95	138.57	137.58	136.41
	Low	138.16	136.00	136.50	135.46	135.26
	NY 17:00	139.00	137.46	136.89	135.69	136.03
日経平均株価	19,435.83	18,540.68	17,806.70	18,376.83	18,574.44	
TOPIX	1,573.01	1,480.87	1,432.65	1,478.97	1,500.41	
NYダウ工業株30種平均	16,459.75	15,871.35	15,666.44	16,285.51	16,654.77	
NASDAQ	4,706.04	4,526.25	4,506.49	4,697.54	4,812.71	
日本10年債	0.37%	0.35%	0.39%	0.37%	0.39%	
米国10年債	2.04%	2.00%	2.07%	2.18%	2.18%	
原油価格(WTI)	40.45	38.24	39.31	38.60	42.56	
金(NY)	1,159.60	1,153.60	1,138.30	1,124.60	1,122.60	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・ 米国では、4日(金)に8月雇用統計が発表される。8月雇用統計の調査週に当たる8月第3週(12日を含む週)の新規失業保険申請件数は、趨勢を示す4週移動平均で27.2万件と7月調査週の27.9万件対比ほぼ横ばいとなった。こうした先行指標の結果を受けて、市場では8月の非農業部門雇用者数は前月比+20.5万人と7月の同+21.5万人とほぼ横ばいながら、引き続き雇用回復の目安となる同+20万人を上回る推移が続くと予想されている。イエレンFRB議長がジャクソンホール・シンポジウムを欠席し、米金融政策についてコメントを避けたことに象徴されるように、9月17日のFOMCに向けて、FRBは未だ利上げの是非に関し態度を決めかねている模様だ。かかる状況下、上記8月雇用統計のほか、1日(火)の8月ISM製造業景気指数で景況感の改善が見られるか(市場予想:52.8、前月結果52.7)や、3日(水)の7月貿易収支(市場予想:▲445億ドルの赤字、前月▲438億ドルの赤字)においてドル高の影響で貿易赤字が予想以上に膨らんでいないか等、経済指標結果に市場が一喜一憂する展開が予想される。このほか、2日(水)に8月ADP雇用統計が発表される。
- ・ 欧州では、3日(木)にECB理事会が開催される。ECBが拡大資産購入プログラム(APP)を実施する中、インフレ期待の指標として注目する5年5年物インフレスワップ(5年5年BEI)は、APPを発表した1月の1.60%水準に再び低下しつつある。しかし、足許のユーロ圏物価指数(HICP)は、伸び率が年初に一時マイナスとなったものの、直近プラスへと転じており(7月前年比+0.2%)、また食料品・タバコ・エネルギー等を除くコアHICPについても、4月同+0.6%を底に7月同+1.0%と上昇基調に転じていることから、ECBは今会合では現状政策維持を決定すると予想する。また、4日(金)～5日(土)にかけてはG20財務大臣・中央銀行総裁会議の開催がアンカラ(トルコ)にて予定されている。同会合では、世界経済の持続的な成長を実現するための各種施策について話し合われると予想されるほか、足許の金融市場の変動に対し、各国で協調した対応策がとられるかが注目される。
- ・ 本邦では、31日(月)に7月鉱工業生産が発表される。先行指標である7月製造工業生産予測指数の当月見込値は94.2と6月93.6より小幅改善となったことから、鉱工業生産指数も6月から上昇すると予想している。また、4日(金)には7月実質賃金総額が発表される。6月は前年比▲2.9%と大幅な減少に転じたものの、夏季ボーナス支払い時期分散が影響している(厚生労働省)ことが背景にあるとみられ、今回の発表値で改善が見られるかに注目が集まっている。このほか、1日(火)に4～6月GDP改定値にも影響する4～6月期設備投資が発表される。

	本 邦	海 外
8月28日(金)	-----	・米7月個人所得・消費 ・米8月ミシガン大学消費者マインド(確報)
31日(月)	・7月鉱工業生産(速報) ・7月住宅着工	・米8月シカゴ購買部協会景気指数 ・ユーロ圏8月消費者物価(速報)
9月1日(火)	・4～6月期法人企業統計 ・8月自動車販売台数	・米7月建設支出 ・米8月ISM製造業景気指数 ・ユーロ圏7月失業率
2日(水)	・8月マネタリーベース	・米4～6月期労働生産性(確報) ・米7月製造業新規受注 ・米ベージュブック
3日(木)	-----	・米7月貿易収支 ・米8月ISM非製造業景気指数 ・ユーロ圏ECB理事会
4日(金)	-----	・米8月雇用統計 ・独7月製造業受注 ・G20財務相・中央銀行総裁会議(～5日、アンカラ)

【当面の主要行事日程(2015年9月～)】

- 日銀金融政策決定会合(9月14～15日、10月6～7日、10月30日)
- 米FOMC(9月16～17日、10月27～28日、12月15～16日)
- スペイン・カタルーニャ州議会選挙(9月27日)
- G20財務相・中央銀行総裁会議(10月8日、リマ)
- 欧州中銀理事会(10月22日、12月3日、2016年1月21日)

以 上

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、确实性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2015年9月)

月	火	水	木	金	週末
	<p>1</p> <p>日本 法人企業統計(4~6月期) 日本 自動車販売台数(8月) 米国 建設支出(7月) 米国 ISM製造業景気指数(8月) ユーロ圏 失業率(7月)</p>	<p>2</p> <p>日本 マネタリーベース(8月) 米国 労働生産性(確報、4~6月期) 米国 製造業新規受注(7月) 米国 ページブック</p>	<p>3</p> <p>ユーロ圏 ECB理事会 米国 貿易収支(7月) 米国 ISM非製造業景気指数(8月)</p>	<p>4</p> <p>米国 雇用統計(8月) ユーロ圏 GDP(4~6月期、改定値) ドイツ 製造業受注(7月) アンカラ G20財務相・中央銀行総裁会議(~5日)(トルコ)</p>	
<p>7</p> <p>日本 景気動向指数(速報、7月) ドイツ 鉱工業生産(7月)</p>	<p>8</p> <p>日本 国際収支(7月) 日本 GDP(4~6月期、確報) 日本 貸出・預金動向(8月) 日本 景気ウォッチャー調査(8月) 日本 企業倒産件数(8月) 米国 消費者信用残高(7月) ドイツ 貿易収支(7月)</p>	<p>9</p> <p>日本 マネーストック(8月)</p>	<p>10</p> <p>日本 国内企業物価(8月) 日本 機械受注(7月) 米国 卸売売上高(7月)</p>	<p>11</p> <p>日本 景気予測調査(7~9月期) 米国 生産者物価(8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、9月) 米国 財政収支(8月)</p>	
<p>14</p> <p>日本 日銀金融政策決定会合(~15日) 日本 第三次産業活動指数(7月) ユーロ圏 鉱工業生産(7月)</p>	<p>15</p> <p>米国 小売売上高(8月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(9月) 米国 鉱工業生産(8月) 米国 企業在庫(7月) ユーロ圏 貿易収支(7月) ドイツ ZEW景況指数(9月)</p>	<p>16</p> <p>日本 金融経済月報(9月) 米国 FOMC(~17日) 米国 消費者物価(8月) ユーロ圏 消費者物価(確報、8月)</p>	<p>17</p> <p>日本 貿易収支(8月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、7月) 米国 経常収支(4~6月期) 米国 住宅着工(8月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(9月)</p>	<p>18</p> <p>日本 日銀金融政策決定会議事要旨(8月6~7日開催分) 米国 景気動向指数(8月) ユーロ圏 国際収支(7月)</p>	
<p>21</p> <p>日本 敬老の日 米国 中古住宅販売(8月)</p>	<p>22</p> <p>日本 国民の休日</p>	<p>23</p> <p>日本 秋分の日</p>	<p>24</p> <p>米国 耐久財受注(8月) 米国 新築住宅販売(8月) ドイツ IFO企業景況感指数(9月)</p>	<p>25</p> <p>日本 全国消費者物価(8月) 日本 東京都部消費者物価(9月) 日本 企業向けサービス価格(8月) 米国 GDP(3次速報、4~6月期) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、9月)</p>	<p>27</p> <p>スペイン カタルーニャ州議会選挙</p>
<p>28</p> <p>米国 個人所得・消費(8月)</p>	<p>29</p> <p>米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(7月) 米国 消費者信頼感指数(9月)</p>	<p>30</p> <p>日本 商業販売統計(8月) 日本 鉱工業生産(8月) 日本 住宅着工(8月) 米国 シカゴPMI(9月) ユーロ圏 失業率(8月) ユーロ圏 消費者物価(速報、9月)</p>			

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2015年10月)

月	火	水	木	金	週末
			1 日本 日銀短観(9月調査) 日本 自動車販売台数(9月) 米国 建設支出(9月) 米国 ISM製造業景気指数(9月)	2 日本 労働力調査(8月) 日本 家計調査(8月) 日本 マネタリーベース(9月) 米国 雇用統計(9月) 米国 製造業新規受注(8月)	
5 米国 ISM非製造業景気指数(9月) ユーロ圏 財務相会合	6 日本 日銀金融政策決定会合(~7日) 米国 貿易収支(8月) ユーロ圏 EU経済・財務相理事会 ドイツ 製造業受注(8月)	7 日本 景気動向指数(速報、8月) 米国 消費者信用残高(8月) ドイツ 鉱工業生産(8月)	8 日本 金融経済月報(10月) 日本 機械受注(8月) 日本 国際収支(8月) 日本 景気ウォッチャー調査(8月) 日本 *企業倒産件数(9月) 米国 FOMC議事要旨 ドイツ 貿易収支(8月) リマ (ペルー) G20財務相・中銀総裁会議	9 米国 卸売売上高(8月) リマ 世銀・IMF年次総会(~11日) (ペルー)	
12 日本 体育の日 米国 *財政収支(9月)	13 日本 日銀金融政策決定会合議事要旨(9月14~15日開催分) 日本 貸出・預金動向(9月) 日本 マネーストック(9月) ドイツ ZEW景況指数(10月)	14 日本 企業物価(9月) 米国 生産者物価(9月) 米国 小売売上高(9月) 米国 企業在庫(8月) ユーロ圏 鉱工業生産(8月)	15 日本 第三次産業活動指数(8月) 米国 消費者物価(9月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(10月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(10月) EU首脳会議(~16日)	16 米国 鉱工業生産(9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、10月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、8月) ユーロ圏 貿易収支(9月) ユーロ圏 消費者物価(速報、9月)	
19	20 米国 住宅着工(9月) ユーロ圏 国際収支(8月)	21 日本 貿易収支(9月)	22 米国 中古住宅販売(9月) 米国 景気先行指数(9月) ユーロ圏 ECB理事会	23 日本 景気動向指数(速報、8月)	
26 米国 新築住宅販売(9月) ドイツ IFO企業景況感指数(10月)	27 日本 企業向けサービス価格(9月) 米国 FOMC(~28日) 米国 耐久財受注(9月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(8月) 米国 消費者信頼感指数(10月)	28 日本 商業販売統計(9月)	29 日本 鉱工業生産(速報、9月) 米国 GDP(1次速報、7~9月期)	30 日本 日銀金融政策決定会合・展望レポート 日本 労働力調査(9月) 日本 家計調査(9月) 日本 全国消費者物価(9月) 日本 東京都都区消費者物価(10月) 日本 新設住宅着工(9月) 米国 雇用コスト指数(7~9月期) 米国 個人所得・消費(9月) 米国 シカゴPMI(10月) ユーロ圏 失業率(9月) ユーロ圏 消費者物価(速報、10月)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2015年8月27日	世界同時株安で台頭する「リスク回避のユーロ買い」②
2015年8月26日	混乱を受けたドル/円相場の見直し改定について【暫定】
2015年8月25日	円相場の観点で見つめ直す日経平均株価の水準感
2015年8月24日	世界同時株安で台頭する「リスク回避のユーロ買い」
2015年8月21日	週末版(FOMC議事要旨(7月28~29日開催分)を受けて~「断固たる覚悟」は見えず~)
2015年8月19日	本邦7月貿易統計を受けて
2015年8月17日	日米欧4~6月期GDPを受けて
2015年8月14日	週末版(ECB理事会議事要旨(7月15~16日開催分)について~no reason for complacency~)
2015年8月13日	人民元切り下げとそれに付随する論点~その②~
2015年8月12日	人民元切り下げとそれに付随する論点
2015年8月11日	2015年上半期における円相場の基礎的需給環境
2015年8月10日	2016年日銀金融政策決定会合日程を受けて
2015年8月7日	週末版
2015年7月31日	週末版
2015年7月30日	FOMCを終えて~吹けば飛ぶような利上げ期待~
2015年7月29日	内閣支持率低下とドル/円相場
2015年7月28日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年6月分)
2015年7月27日	第三次金融支援でギリシャは幸せになれるのか
2015年7月24日	週末版(NZドルの現状や展望について~購買力平価(PPP)や実質実効為替相場(REER)からの評価~)
2015年7月23日	ユーロキャリー取引の妥当性を考える
2015年7月17日	週末版(ECB理事会を終えて~見直されるLLR機能~)
2015年7月16日	日銀金融政策決定会合を受けて
2015年7月15日	GPIF運用状況(15年3月末)から試算する円売り余力
2015年7月14日	ギリシャ第三次金融支援合意について
2015年7月13日	ユーロ圏、72時間以内の緊縮可決を要求
2015年7月10日	週末版(本当に本当の最後の会合~不安な「ギリシャ後の展開」~)
2015年7月9日	不運が続く円安シナリオ
2015年7月6日	ギリシャ国民投票を受けて~勝負の2週間~
2015年7月3日	週末版(拡大資産購入プログラム(APP)の現状と展望について~ギリシャ情勢を受けて問われる運営方針~)
2015年7月2日	外貨準備構成通貨の内訳(15年3月末時点)
2015年7月1日	ギリシャ返済遅延と離脱に係る損失試算について
2015年6月29日	一連のギリシャ動向について~デフォルトはメインシナリオへ~
2015年6月26日	週末版(2015年上半期を終えて~素直な政策金利相場だった上半期~)
2015年6月25日	約18年半ぶりの株高を受けて~実感はあるか?~
2015年6月24日	ユーロ圏、ギリシャ以外の年内の火種は?
2015年6月23日	何故ユーロ相場は底堅いか?
2015年6月22日	ギリシャ向けエクスポージャーの現状把握
2015年6月19日	週末版(ユーロ圏財務相会合を終えて~舞台は首脳級へ引き継ぎ~)
2015年6月18日	FOMC及びSEPを受けて(6月16~17日開催分)
2015年6月16日	米4月対内・対外証券投資(TIC)レポートについて
2015年6月15日	当面のギリシャ情勢~考え得るシナリオや離脱後の相場~
2015年6月12日	週末版(黒田総裁発言の解釈~実質実効為替相場を考える~)
2015年6月10日	ユーロ圏1~3月期GDP(2次推計値)について
2015年6月9日	基礎的需給環境の確認~4月国際収支統計を受けて~
2015年6月8日	本当にFRBの早期利上げは可能になったのか?
2015年6月5日	週末版(ユーロ相場の急騰について~「壮大な投機」の後退:その②~)
2015年6月4日	ECB理事会を終えて~ボラティリティ許容発言の意図~
2015年6月3日	2年ぶりの実質賃金上昇~忍び寄る交易損失~
2015年6月2日	ECB理事会プレビュー~「完全なる実施」の強調~
2015年6月1日	G7を終えて~ドル高、交差する三種の思惑~
2015年5月29日	週末版
2015年5月28日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年4月分)
2015年5月27日	「7年10か月ぶりの円安・ドル高」を受けて
2015年5月26日	ドル/円上昇をもたらした2つの要因~従前の想定は変わらず~
2015年5月25日	ECB理事会議事要旨(4月15~16日開催分)について
2015年5月22日	週末版(ユーロ圏に戻るリアルマネー~証券投資動向から占うユーロ相場~)
2015年5月21日	クレー発言の真意とQEの実施状況について
2015年5月20日	本邦1~3月期GDPについて~消費&在庫が下支え~
2015年5月19日	足許のギリシャ情勢について~6月返済も危ういか~
2015年5月18日	ユーロ相場の急騰について~「壮大な投機」の後退~
2015年5月15日	当面のギリシャ情勢の整理~何度目かの佳境~
2015年5月14日	ユーロ圏1~3月期GDP(一次推計値)について
2015年5月13日	本邦3月国際収支統計と円相場見直しについて
2015年5月12日	本邦の雇用・賃金情勢について~完全雇用到達後の世界~
2015年5月11日	英国総選挙と今後についての論点整理
2015年5月8日	QQEの効果検証~「金利への回帰」の布石か~
2015年5月7日	欧州委員会春季経済予測について
2015年5月1日	週末版(日銀政策決定会合を終えて~勝負の秋~)
2015年4月30日	米1~3月期GDP及びFOMCについて
2015年4月28日	投機筋の円ショート縮小をどう読むか?
2015年4月27日	最近のギリシャ情勢に関する整理
2015年4月24日	週末版(日銀政策決定会合プレビューその②~参院財政金融委員会での総裁発言を受けて~)
2015年4月23日	日銀政策決定会合プレビュー
2015年4月22日	本邦3月貿易統計~黒字転化をどう評価するか~
2015年4月20日	重要な論点は「いつやるか」から「何回できるか」
2015年4月17日	週末版(ECB、PSPPの残高状況に関して~「12%」から何を読み取るか?~)
2015年4月16日	ECB理事会を終えて~与信改善を強調~
2015年4月15日	通貨政策の変節と日銀~浜田参与発言を受けて~
2015年4月14日	ECB理事会プレビュー~早くも聞こえ始めたtapering~
2015年4月13日	米為替政策報告書について~ドル高容認の継続?~
2015年4月10日	週末版
2015年4月7日	量的・質的金融緩和(QQE)導入から2年を受けて
2015年4月6日	米3月雇用統計~6月利上げの芽は潰れたか~
2015年4月3日	週末版(ECB理事会議事要旨(3月5日開催分)~「prudent optimism(節度ある楽観)」の先行きは~)
2015年4月2日	日銀短観3月調査~「需要不足」から「供給不足」へ~
2015年4月1日	外貨準備構成通貨の内訳(14年12月末時点)
2015年3月30日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年2月分)
2015年3月27日	週末版
2015年3月26日	本邦対内・対外証券投資の動向について
2015年3月25日	本邦家計部門の金融資産の現状について
2015年3月24日	円相場の基礎的需給環境の整理
2015年3月23日	ユーロ圏1月国際収支統計~対内証券投資が回復~